



# 週間情報



No.3008

発行日 平成30年2月27日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

## 両会の動き

### ◆ 事務担当者会議を開催

#### 全国消防長会・一般財団法人全国消防協会

全国消防長会・一般財団法人全国消防協会では、平成30年2月26日（月）、東京都千代田区（主婦会館）において、平成29年度事務担当者会議を開催しました。

各会議における報告事項等は次のとおりです。

#### 1 報告事項

##### (1) 全国消防長会

- ア 平成30年度事業計画（案）及び平成30年度収支予算概算（案）について
- イ IFCAA2018TOKYOの開催概要について
- ウ 平成30年度全国消防長会役員会等の概要について
- エ 平成30年度各種研修会等について
- オ 全国消防長会情報管理システムにおける機能改修について
- カ 事業推進委員会における参与の追加等について

##### (2) 一般財団法人全国消防協会

- ア 平成30年度事業計画及び平成30年度収支予算について
- イ 第47回全国消防救助技術大会について
- ウ 消防救助技術地区指導会選手名簿への広告掲載について
- エ 平成30年度消防実務講習会の実施について
- オ 消防団体保険事業について
- カ 図書の発行について
- キ 賛助会員の紹介について
- ク 指定店制度について

#### 2 情報交換事項

##### (1) 全体会議

情報管理システムを活用した次年度行事予定の情報共有について

##### (2) 支部グループ

- ア 支部活動費等の説明について
- イ 一般財団法人全国消防協会の会議運営スケジュールについて

##### (3) 事業推進委員会グループ

- ア 事業推進委員会の審議状況の情報提供のあり方について
- イ 単独で開催している常任委員会の開催状況について
- ウ 平成30年度全国消防長会事業推進委員会開催予定表について
- エ 防火・避難規定等に関する建築基準法改正に係る要望について
- オ 平成29年度消防庁で実施した検討会一覧について
- カ 全国消防長会の過去10年間の要望一覧について
- キ 電子会議室の積極的活用について



【全体会議の様子】



【支部グループ会議の様子】



【事業推進委員会グループ会議の様子】

## ◆ 消防ピアカウンセラー養成講座を開催

熊本県消防長会

熊本県消防長会では、平成30年1月15日（月）及び16日（火）の2日間、NPO法人日本消防ピアカウンセラー協会協力のもと、消防ピアカウンセラー養成講座を開催しました。

消防ピアカウンセラーとは、出動時や災害対応での強いストレスにより急性ストレス反応を示した隊員等に対して、その隊員の心的外傷後ストレスをケアする同僚のことで、より相手の目線に立ったカウンセリングをすることが出来ます。

講座では、県内の消防本部等から34名が参加し、惨事ストレスの反応と対策・ピアサポートの基礎知識等の座学をはじめ、傾聴技法のロールプレイ、傾聴・ピアカウンセリング等の実習を行い、隊員のピアサポートに必要な知識・技術を学びました。

熊本県は、平成28年熊本地震を経験したことで、職員のメンタルサポートの重要性を実感することとなりました。今後も、職員の惨事ストレス等に適切に対応できるよう取組みを続けてまいります。



【ピアカウンセラー養成講座の様子】

## ◆ 住宅用火災警報器設置対策連絡会及び予防担当者会議を開催

京都府消防長会予防部会

京都府消防長会予防部会では、平成30年2月16日（金）、京都市内において、府内消防本部で火災予防を担当している職員を対象として、前半に「住宅用火災警報器設置対策連絡会」、後半に「予防担当者会議」を開催しました。

当日は15消防本部38名の消防職員が参加し、「住宅用火災警報器設置対策連絡会」では住宅用火災警報器の保守点検や電池交換の周知を図るための取組み方法などを情報交換しました。「予防担当者会議」では法令運用などを情報交換し、住宅宿泊事業の届出に伴う消防法令通知書の運用方針など意見を交換し、消防本部の垣根を越え職員間の交流を深めました。

また、京都府災害対策課、建築指導課、住宅課から講師をお招きし、予防業務に関する講義をいただきました。



【住宅用火災警報器設置対策連絡会の様子】



【予防担当者会議の様子】

## ◆ 救助技術研究会を開催

### 兵庫県下消防長会

兵庫県下消防長会では、平成30年2月16日（金）、アスパシア明石「子午線ホール」にて兵庫県下消防長会救助技術研究会主催による「第10回救助技術研究会」を開催しました。

救助技術研究会は平成20年度から開催しており、今回で第10回の節目の開催となりました。

今年度は、明石市消防本部が研究会事務局を務め、本研究会には、県下消防本部から293名が参加し、西宮市消防局、淡路広域消防事務組合、赤穂市消防本部、神戸市消防局より、新たな救助技術の取り組みや、救助事例の発表をしていただき、その後、兵庫県下消防長会救助技術研究会作業部会が、今年度研究した「建物構造と崩壊メカニズム」の結果報告を実施しました。

今後も、研究会を通じて県下救助隊員の知識・技術の向上につなげていきます。



【救助事例発表時の様子】



【救助事例発表時の様子】

## 消防本部の動き

### 行事

#### ◆ 子育て世代への「こども救急なんでも相談会」を開催

### 坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部（埼玉）

坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部では、平成30年2月7日（水）、管内公共施設の幼児イベントにおいて、子育て世代の救急に関する不安を軽減させることを目的に、「こども救急なんでも相談会」を開催しました。

本相談会は、実際に子育て中の女性消防職員により始めた新たな事業です。救命講習等に参加することが難しく、応急手当の知識や救急に関する情報を得ることが難しい小さな子を持つ親を対象に、子育ての経験を生かした講話などを実施しました。また、救急出動件数が年々増加傾向にある中、救急車の適正利用推進も図り、埼玉県が平成29年10月1日から導入した「#7119」の普及啓発を行いました。

今後、管内全域の幼児イベントで開催する予定です。



【こども救急なんでも相談会の様子】

#### ◆ 聴覚障がい者対象の防火防災訓練を実施～手話で解説～

### 東京消防庁（東京）

東京消防庁小平消防署では、平成30年2月8日（木）、聴覚に障がいのある方を対象として、筆談や手話などでコミュニケーションを図ることを目的に営業している管内の喫茶店において、当該店舗利用者を対象とした防火防災訓練を実施しました。

訓練会場に手話通訳者を派遣要請するとともに、手話通訳で表現が難しい場合を想定した視覚的な資料を作成して訓練に臨み、AEDを使用した心肺蘇生法、緊急ネット通報や119番ファクシミリ通報の紹介、消防用設備についての教養などを行いました。



【防火防災訓練の様子】

## ◆ 飲料水兼用耐震性貯水槽資器材等取扱訓練を開催

宝塚市東消防署では、平成30年2月10日(土)、管内の防災公園(山本新池防災公園)において、近隣の自主防災組織の代表者13名を対象に飲料水兼用耐震性貯水槽資器材等取扱訓練を開催しました。

本訓練をとおして、自主防災組織に配備された資器材を活用しての飲料水・消火用水の確保要領について学んでいただきました。

資器材を実際に取り扱うことで理解を深めてもらい、地域の防災力向上に繋げることができました。

### 宝塚市消防本部(兵庫)



【自主防災組織による取扱訓練の様子】

## ◆ 防火衣で21km走破!

### 橋本市消防本部(和歌山)

橋本市消防本部では、平成30年2月11日(日)に開催された「第21回橋本マラソン」に職員が防火衣で参加し、防火広報活動を実施しました。

県内外より約1,300人のランナーが参加した本マラソン大会では、今年度、橋本市常備消防発足50周年の節目の年であったため、我々消防職員も防火服を着装し、「常備消防発足50周年」及び「火の用心」をPRしながら、約21kmのマラソンコースを走りました。

当市は台地が多いため、非常にアップダウンの激しいマラソンコースでしたが、多くの市民に「がんばれ!!」「さすが消防士!!」といった声援を頂き、職員全員完走することができました。

難しいコースを共に走った参加者だけでなく、声援を送ってくれた市民、大会関係者、その他多くの方々に支えられ、市民とふれあう防火広報活動ができたと感じています。



【大会の様子「祝!50周年」(胸)「火の用心」(背中)】

## ◆ 新生消防音楽隊発足5周年記念コンサートを開催

### 和歌山市消防局(和歌山)

和歌山市消防局では、平成30年2月11日(日)、JR和歌山駅前地下のわかちか広場において、新生消防音楽隊発足5周年を記念し、消防音楽隊がコンサートを開催しました。

消防音楽隊は、消防職員のみで昭和44年に結成されましたが、平成24年に機能別消防団防火広報団員を加えた新体制となり、5周年を迎えた現在、週1回の訓練を重ね年間20回以上の派遣演奏を実施しています。

アニメ・ドラマ主題歌や歌謡曲を中心に子どもから大人まで楽しめる曲を披露し、カラーガード隊一舞旗(いぶき)のフラッグ演技とともに観客を魅了しました。



【コンサートの様子】



【カラーガード隊一舞旗の演技】

## ◆ 伊丹市消防発足65周年「消防記念日」自主防災リーダー推進大会を開催

伊丹市消防局（兵庫）

伊丹市消防局では、平成30年2月15日（木）、伊丹市消防65周年「消防記念日」自主防災リーダー推進大会を開催しました。

本大会では、防火・防災に功労のあった団体・個人を表彰するとともに、「糸魚川市大規模火災を教訓とした防火・防災対策について」と題して、東京理科大学 総合研究院 小林恭一教授による講演を実施し、市内の自主防災組織関係者をはじめ、事業所、近隣の消防関係者など、参加者全員が熱心に聴講しました。



【講演の様子】

## ◆ 未来の女性消防官消防職業体験を実施

尾三消防本部（愛知）

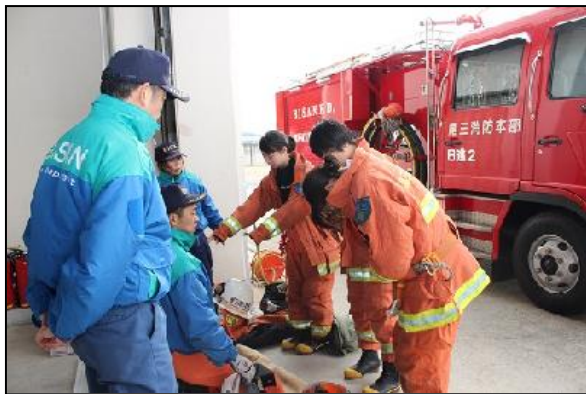
尾三消防本部では、平成30年2月17日（土）、消防で働くことに興味のある女性を対象に消防の業務内容などを知っていただくため、未来の女性消防官消防職業体験を実施しました。

職業体験には21名の女性が参加し、チロリアン渡過、三連はしごの登り、空気呼吸器を装着して煙の中への進入等職員が実際に行う訓練を体験していただきました。

女性職員への質疑応答では、「結婚、出産後は現場復帰できるのでしょうか？」「試験の受験資格に身長制限はありませんか？」など女性ならではの質問があり、現役の女性消防官の丁寧な回答に、皆さん安心した様子でした。

参加者からは、「消防に興味があり参加したが、今回の体験で消防士になりたい気持ちがより強くなった」「女性職員が格好よく、生き生き働ける職場だと思った」等の感想をいただきました。

女性の更なる活躍のため、今回の体験が参加者の皆さんの就職先の選考の一助になれば幸いです。



【防火衣着体験の様子】



【放水体験の様子】

## 訓練・演習

### ◆ 雪崩を想定した遭難者救助訓練を実施

鹿角広域行政組合消防本部では、平成30年2月7日（水）、警察、電力会社と合同で雪崩災害を想定した遭難者救助訓練を実施しました。

本訓練実施場所は、標高約1,000メートルの豪雪地帯で気温マイナス10.0℃、積雪3.6メートルの中、合同指揮本部の設置訓練、連絡手段の確保訓練、関係者からの情報収集訓練、ゾンデ棒やビーコンを活用した捜索救出訓練、雪上車での搬送訓練、各機関からの講話を行うなど、有事の際の関係機関相互の連携を確認しました。

今後も予測できない自然災害に備えて、救助技術の向上を図っていきます。

#### 鹿角<sup>かつの</sup>広域行政組合消防本部（秋田）



【雪崩災害想定訓練の様子】

※ビーコン 積雪時における登山や山スキーなど、雪崩に遭遇する危険のある場合に携行する小型の機器であり、電波の発射及び受信が可能である。雪崩に巻き込まれ雪の中に埋没してしまった場合、埋没した人が携行しているビーコンから発射される電波を救助者のビーコンで受信することにより、埋没した人の位置を探索できる。

※ゾンデ棒 約50cmの棒がワイヤーで繋がっており、使用時に1本の棒にして雪中に突き刺し、埋設者の位置を特定する。



【ゾンデ棒】

### ◆ 大規模物流倉庫において消防演習を実施

#### 埼玉西部消防局（埼玉）

埼玉西部消防局所沢東消防署では、平成30年2月12日（月）、所沢市内の大型物流倉庫「三越伊勢丹所沢センター（鉄筋コンクリート造地上6階建て、延べ床面積約4万㎡）」において、消防総合演習を実施しました。

本演習は、平成29年2月に発生した埼玉県三芳町の物流倉庫火災から1年を迎えることを受け、本火災を教訓とした事業所自衛消防隊と消防職員の消防活動を検証し、類似火災発生防止と被害の軽減を図ることを目的に行いました。

訓練は、「建物1階から出火し、自衛消防隊による初期消火、119番通報、避難誘導の後、延焼拡大した建物内に取り残された従業員がいる。」という想定のもと行い、消防職員、従業員約150人が参加しました。

この訓練では、初期消火、119番通報など初動体制や自衛消防隊と消防職員が出火状況や被害情報の共有化を図るなど連携強化の重要性を再認識でき有意義な訓練となりました。



【自衛消防隊による初期消火訓練の様子】



【地上からの放水、梯上放水の様子】

## ◆ テロ災害合同訓練を実施

### 可茂消防事務組合消防本部（岐阜）

可茂消防事務組合では、平成30年2月13日（火）、可児市福祉センターにおいて管内警察署とテロ災害合同訓練を実施しました。

不特定多数の市民が集まる場所で何者かが不審物質を撒き散らしたとの想定で、福祉センター職員も要救助者役として参加していただきました。

本訓練では、警察官と協力し除染所やトリアージポストの設営、消防による要救助者の救出から除染、警察による現場付近の立入制限など、それぞれの情報を共有することで災害初動時に対応する消防及び警察間の連携強化を図ることができました。



【訓練の様子】

## ◆ 毒劇物災害対応訓練を実施

### 恵那市消防本部（岐阜）

恵那市消防本部では、平成30年2月13日（火）、毒劇物災害訓練を実施しました。

本訓練は、市内事業所で「作業中に手順を間違え、何らかのガスが発生し、数名の傷病者が助けを求めている。」との想定で行いました。

訓練後の検討会では、毎年実施しているものの、各隊の連携及び傷病者の管理等の課題が多数出され、今後も継続的に訓練を実施し更なる技術・知識の向上を目指します。



【訓練の様子】

## ◆ チェーンソー取扱い訓練を実施

### いわき市消防本部（福島）

いわき市消防本部では、平成30年2月15日（木）、現場経験の少ない若手職員の育成や、消防活動中の事故防止を目的にチェーンソー取扱い訓練を実施しました。

本訓練は、いわき市森林組合に訓練現場の確保及び指導の協力をいただき、倒木を想定した木材の切断実技や、機器の分解、メンテナンス要領の解説など、専門性の高い内容でした。

実施者は、安全かつ迅速な消防活動へ繋げようと、真剣な眼差しで訓練に臨んでおり、知識・技術の向上に繋がる訓練となりました。

近年、全国各地で自然災害が猛威を振るっていることから、有事の際は、市民の安全で安心な暮らしを守るよう、訓練を重ねて参ります。



【取扱い訓練の様子】

## ◆ ラグビーワールドカップ2019に向けて語学研修を実施

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部（静岡）

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部は、袋井市にある静岡スタジアムエコパがラグビーワールドカップ2019の開催地となることから、開催期間中は多くの外国人観光客が本市を訪れることとなり、現場での警戒及び救急活動など様々な要請に対応する必要があります。

このため、当本部では、平成30年2月15日（木）、袋井市国際交流員2人を講師に迎え、消防職員を対象とした語学研修を実施しました。

研修では、海外の救急事情や、救急現場や案内等で使う簡単な単語・文を習得、消防職員と傷病者役の国際交流員が実践的なシミュレーション方式の訓練を行い、「外国人とのコミュニケーション能力」の向上を目指しました。

日本人は「英語が話せない」ではなく「話さない」ということを確認することができ、慣れない英語に戸惑いながらも「話す」よう意識改革することができた有意義な研修となりました。



【講義の様子】



【シミュレーション方式訓練の様子】

## ◆ 静岡県西部生コンクリート協同組合と合同で消防訓練を実施

浜松市消防局（静岡）

浜松市消防局では、平成30年2月16日（金）、本市と静岡県西部生コンクリート協同組合との間で昨年締結した「災害時における応援業務に関する協定」に基づき、本市では初めてとなる合同消防訓練を実施しました。

本訓練は、平成28年12月に新潟県糸魚川市で発生した大規模火災を教訓とし、大規模火災発生時におけるコンクリートミキサー車による消防用水供給及び運搬業務の手順等を確認しました。

訓練終了後、研修会を行いコンクリートミキサー車の特性などの理解を深め、関係機関との連携を強化するとともに災害対応力の向上を図りました。



【訓練の様子】



## 研 修 等

### ◆ 火災原因調査研修会を開催

#### 衣浦東部広域連合消防局（愛知）

衣浦東部広域連合消防局では、平成30年1月29日（月）及び30日（火）、火災原因調査を担当している指揮調査係員が中心となり、火災原因調査研修会を開催しました。

本研修会は、現場で小隊長になる職員を対象に、火災現場での関係者への質問要領や現場観察要領など技術の向上を図るため、また、若手職員を育成するための知識を得ることを目的とし実施したものです。

研修内容は、実際の現場での小隊長として行うべき火災原因調査の内容を考慮し、火災調査書類についての説明、模擬火災を使用した発掘及び見分、火災原因判定書の作成を行いました。

今後も、組織全体の火災原因調査の技術向上に努めてまいります。



【コンセント付近を発掘する様子】

### ◆ コンプライアンスについて職員研修会を開催

#### 館林地区消防組合消防本部（群馬）

館林地区消防組合消防本部では、平成30年2月14日（水）及び15日（木）の二日間、職員研修の一環として、第一法規株式会社政策情報センターより講師を迎え、公務員におけるコンプライアンスについて研修会を実施しました。

本研修会では、地方公務員法の規定に基づく宣誓書の重要性や組織内でのコミュニケーションの在り方、また、社会人として常識であるべき『ホウ・レン・ソウ』を根幹とした管理体制が公務員には必須であることなどを再認識させていただきました。さらに、地域性や性別における精神的な観点からの社会良識の遵守など、公務員として地域住民から求められる倫理観を学ぶことができた有意義な研修会となりました。



【研修会の様子】

### ◆ マタニティ・サポート119事業「産科救急研修」を実施

#### 湯河原町消防本部（神奈川）

湯河原町消防本部では、「マタニティ・サポート119（妊婦搬送）事業」の平成30年4月1日（日）からの運用開始に向け、平成30年2月15日（木）に湯河原町保健センターにおいて、産科救急研修を実施しました。

本研修では、乗務を予定する職員30名を対象に、搬送業務の安全性を確保するため、神奈川県立こども医療センターの産婦人科医師及び聖マリアンナ医科大学産科病棟の助産師など6名の指導者を迎え、分娩介助や女性傷病者の評価など「産科医に引き継ぐまでの初期対応」について学びました。

受講した職員からは、「心疾患、脳血管障害や外傷などに比べて、遭遇する事例の少ない周産期救急は、乏しい経験の中で対応を迫られることになるため、大変有意義な研修となった。」との声が多く聞こえました。

引き続き、ローリスク妊産婦の搬送と妊産婦傷病者の搬送の2面性を考慮した、多種多様な対応に努めてまいります。



【産科救急研修の様子】

## ◆ 特殊災害活動研修会を開催

かすみがうら市消防本部では平成30年2月15日（木）及び16日（金）、消防本部2階会議室及び東消防署会議室において、特殊災害活動研修を受けた職員により勉強会を開催しました。

本研修会は、特殊災害時における活動の対応について、知識の向上及び理解を深めることを目的に、部隊行動計画の研修を実施しました。

このほか、火災調査についても勉強会を開催し、職員の質の向上に努めております。

### かすみがうら市消防本部（茨城）



【研修会の様子】

## ◆ 観光バス転落事故シミュレーション訓練を実施

### 東山梨行政事務組合東山梨消防本部（山梨）

東山梨消防本部では、平成30年2月16日（金）、当消防本部会議室において大型観光バスの転落事故により多数の傷病者が発生したことを想定し、シミュレーション訓練を実施しました。

本訓練は、多数傷病者発生時の救急救護活動計画に基づき実施したもので、消防隊の編成及び活動に加え、山梨DMAT及び管内医療機関の2病院からDMATの参加を受け、両者の災害現場活動の効率的な運用と各機関相互の連携について再確認することができました。

今後も継続的な訓練を実施し、災害現場活動が円滑に実施できるよう関係機関と連携を図っていきます。



【シミュレーション訓練の様子】

## ◆ 予防技術検定受検前講習会を開催

### 岩見沢地区消防事務組合消防本部（北海道）

岩見沢地区消防事務組合消防本部では、平成30年2月19日（月）、平成29年度予防技術検定まで約1か月となることから、受検対策として予防技術検定受検前講習会を開催しました。

違反処理業務の推進を図るため、検定受検による若年職員の予防技術資格者養成が急務であり、さらに守りの予防から攻めの予防へと変革している昨今、若年職員の予防行政に対する意識も高く、消防同意担当職員を講師とした各科目（防火査察、共通科目）の学科及び模擬試験はたいへん有意義なものとなりました。また、模擬試験結果集計により設問ごとの正答率を分析することができ、受検対策として効果的なものとなりました。



【講習会の様子】

## 消防学校からの便り

### ◆ 全国で初めての専科教育「准救急科」を実施

#### 愛媛県消防学校

愛媛県消防学校では、平成30年2月5日（月）から2月23日（金）の間、全国で初めて専科教育「准救急科」を実施しました。

第1回「准救急科」では、西予市消防本部からの入校生8名を対象に、准救急隊員として必要な基本的な医学的知識、的確な観察及び判断能力、応急処置に関する技能を修得することを目的とし、実日数16日間、総時間数105時間（医療機関及び現場における実地研修を含む。）の教育訓練を行いました。

8名の職員は、本課程修了後3月末までの間、西予市消防本部において更に研修を積み、4月1日から西予市消防署明浜救急出張所又は城川救急出張所において准救急隊員として活動を開始する予定であり、全国初の准救急隊員としての誇りと責任の重さをしっかり認識し、地域住民の方々の負託に応えていくことを期待しています。



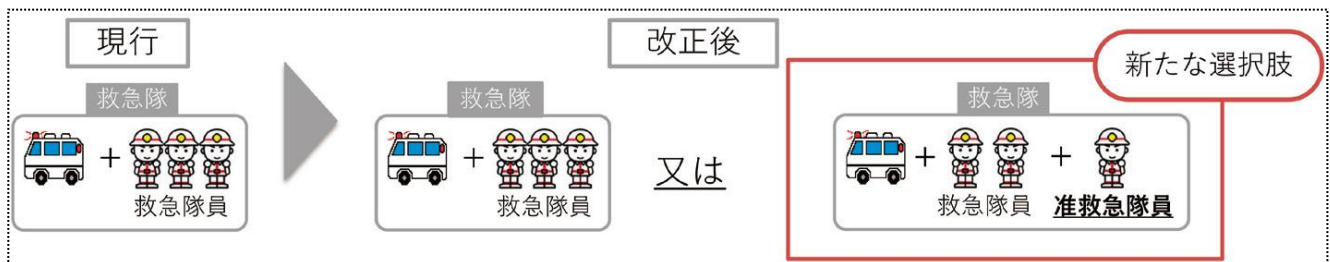
【講義の様子】



【実習の様子】

#### ※ 准救急隊員について

平成29年4月1日から施行された消防法施行令の一部を改正する政令（平成28年政令第379号）により、一定の条件を満たす地域は、下記図のような救急隊が編成できることとなりました。



図は消防庁「消防の動き 2017.2」より抜粋

### 報道発表

#### ◆ 第22回防災まちづくり大賞受賞団体の決定（平成30年2月22日、消防庁）

「防災まちづくり大賞」は、阪神・淡路大震災を契機に平成8年度に創設され、今回で22回目を迎えました。地域に根ざした団体・組織等、多様な主体における防災に関する優れた取組、工夫・アイデア等、防災・減災に関する幅広い視点からの効果的な取組等を表彰し、広く全国に紹介することにより、地域における災害に強い安全なまちづくりの一層の推進に資することを目的として実施しています。

この度、防災まちづくり大賞選定委員会（委員長：室崎益輝（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 科長））において、「第22回防災まちづくり大賞」の受賞団体を決定しました。受賞した17団体の内訳は次のとおりです。

総務大臣賞	3団体
消防庁長官賞	4団体
日本防火・防災協会長賞	10団体
計	17団体

※ 受賞団体名等は、別添（※省略）の受賞団体一覧を御覧ください。

※ なお、今回の防災まちづくり大賞は、自治体消防制度70周年記念事業の一環として行っているものです。

（表彰式の概要）

日時：平成30年3月1日（木）16時30分～17時20分

場所：ホテルルポール麹町（東京都千代田区平河町2-4-3）

内容：主催者挨拶（総務省）、選定委員会委員紹介、表彰、記念撮影等

#### 【問い合わせ先】

消防庁国民保護・防災部地域防災室  
住民防災係（加藤、山野、佐々木）

TEL：03-5253-7561

FAX：03-5253-7576

E-mail：chiikibousai@ml.soumu.go.jp

○ 全文は、消防庁ホームページ

（[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/02/300222\\_houdou\\_1.pdf](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/02/300222_houdou_1.pdf)）に掲載されています。

### 情報提供

#### ◆ 消防本部名の変更について

○ 入間東部地区事務組合消防本部（埼玉）（会員コード：31638）

変更理由：清掃組合と組織が統合するため。

変更日：平成30年4月1日（日）

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

**週間情報への投稿は企画課へ！**

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail：[weekly@fcj.gr.jp](mailto:weekly@fcj.gr.jp)